

中国太郎の発掘日記

島根県埋蔵文化財調査センター

松江市打出町33

TEL0852-36-8608

12月に入ってめっきり寒くなってきましたが、みなさまお元気でお過ごしでしょうか。

さて、島根県埋蔵文化財調査センターでは、今年の5月から江の川河川改修事業に伴う発掘調査を行ってきましたが、地元のみなさまや関係機関のご協力により、調査を無事に終えることができました。

今回の調査では、江の川沿岸地域の歴史を解明する上で興味深い発見がいくつもありました。

また来年度以降も別の場所で調査を行う予定です、今後の調査成果にご期待ください。

それではみなさま良い年をお迎えください！



森原神田川（もりばらじんでがわ）遺跡

○所在地：江津市松川町太田

○調査期間：5月～11月末

遺跡は江の川の右岸沿いにあります。現水田面から1.5mほど掘り下げた深さで、江戸時代初め（17世紀前半）とみられる水田跡が見つかりました。

水田跡からは多数の人や牛とみられる動物の足跡が見つかり、農作業に牛を使った様子が見えます。

この水田跡は江の川が運んだ土砂でできた自然堤防を開墾しており、江戸時代初め頃に周辺で大規模な新田開発が行われたことがわかりました。

また、この水田面をさらに掘り下げたところ、牛にひかせる犁（すき）で田を耕した痕とみられる溝なども見つかりました。

この他、遺跡からは中世～近世の陶磁器なども出土しています。

9月には現地説明会を行い、多くの人でにぎわいました。10月には高角小学校の子どもたちに発掘調査の作業風景を見学してもらいました。

今回の調査は、江戸時代初め頃に行われた大規模な新田開発や、水田耕作の様子、農村景観などを考える上で貴重な成果となりました。



・明らかになった水田跡 白く見えるのが人や牛の足跡です。



・水田面の下には、牛にひかせる大きな犁（すき）で耕した痕が残っていました。

田淵（たぶち）遺跡

○所在地：江津市川平町南川上

○調査期間：5月～10月

5月から10月まで発掘調査を行いました。

田淵遺跡は江の川と奥谷川に挟まれた緩斜面にあり、洪水により運ばれた土砂が厚く堆積していました。江戸時代以降に堆積した土は攪拌（かくはん）を受けており、度重なる冠水にもめげず、畑作を続けてきたようです。地表下約2mからは、中世（12～13世紀）の埴（わん）や皿をまとめて廃棄した跡や、柵（さく）あるいは塀（へい）が建てられていたと考えられる柱穴列、小型の鉄製品を製作した鍛冶炉（かじろ）などが見つかりました。鍛冶炉周辺には複数の柱穴があり、形態こそ不明ですが屋根のある建物があった可能性があります。また、中国から輸入された青磁・白磁などが出土していることから、周辺に有力者の屋敷やお寺などが存在していたのかもしれない。



・中世の鍛冶炉 炉に空気を送る羽口（はぐち）が残されていた。



・10月1日の現地公開の様子 「古くから人が生活していたんですねー。」



高角小学校のみなさんとドローンで空から記念撮影。

